第33回 全日本中学生水の作文コンクール
和歌山県入賞作品集

姥ケ滝

表紙の写真『姥ケ滝』（和歌山県ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ フォトライブラリーより）

田殿橋より賢谷川を上流へ約８ｋｍ上がったところに姥ケ滝があります。落差約１５ｍ、奇岩が重なり周囲をカエデにおおわれた様子が風情を感じさせます。滝の名は悲しい老婆の伝説に因んでいます。

場所：有田郡有田川町田角

姥ケ滝伝説（有田川町ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞより）

その昔、この滝のすぐそばに１人の老婆が住んでいました。ある年、検地の役人がやってきてその姥に「ここから上に田はないか」とたずねたところ、姥はきっぱりと「ありません」と答えたのでした。本当はその上流には、在所の人々が重い年貢から逃れるための隠し田が広がっていたのです。

この姥の一言で田は役人に見つけられずに済み、人々は生きながらえることができたのでした。

しかし数年後、再び検地の役人がやってきて、滝つぼで一息ついていると、滝の上流からひとすじのわらが流れ落ちてきました。それを、めざとく見つけた役人は上流に田があることに気づき、姥を責め、怒りのあまり首をはねてしまったのでした･･･。

滝の近くにはこの老婆の霊を祀るため里人が建てたと言われる祠があり、また、姥ケ滝の名も、この伝説によるものとされています。

あいさつ

水は、あらゆる生命を支えるとともに、私たちの暮らしや、農業、工業などの産業活動を支えている限りある貴重な資源であります。一方、近年では、世界的に渇水、洪水が頻発し、水利用の安定性や安全で良質な水資源の確保が重要な課題となっています。

その「水」への理解を深めていただくため、八月一日を「水の日」と定めその後の一週間を「水の週間」とし、全国で様々な行事が実施されています。

和歌山県としても、限りある貴重な水資源を未来へ引き継ぐため、次世代を担う中学生を対象とし、日常生活での体験や両親、先生から学び聞いた話などをもとに、今一度水を見つめる啓発活動として、昭和五十四年度から「全日本中学生水の作文コンクール」を実施しております。

今回は、県内から八三三編の応募をいただきました。「水について考える」というテーマにふさわしく、日常生活を通じて水について感じたことや、水を大切にする思いを表現された作品がたくさんありました。

このたび、入賞作品十八編を作文集にまとめましたので、ご一読いただき、家庭や学校において、限りある資源である「水」について、関心を高め理解をより深めていただくことを願っています。

最後に、本コンクールに応募された中学生の皆さんとご担当いただいた先生方に厚くお礼申し上げます。

平成二三年八月五日

和歌山県企画部長　柏原康文

もくじ

優秀賞

「水」との関係　近畿大学附属和歌山中学校　三年　有馬　瑞穂　・・・1

人と水　近畿大学附属和歌山中学校　一年　栗本　実季　・・・3

水と自然　近畿大学附属和歌山中学校　三年　山本　直摩　・・・5

入選

水の大切さ　近畿大学附属和歌山中学校　二年　伊藤　南帆　・・・7

カンボジアと水、そして笑顔　近畿大学附属和歌山中学校　二年　井上　絵莉子　・・・8

水とわたしたちの生活　和歌山県立田辺中学校　三年　浦﨑　菜央　・・・9

「消えてゆくため池」　近畿大学附属和歌山中学校　三年　岡本　彩　・・・10

水の大切さを考える　近畿大学附属和歌山中学校　二年　河島　宏樹　・・・11

川の源流を守る　近畿大学附属和歌山中学校　二年　木下　青意　・・・12

水不足解消のために　近畿大学附属和歌山中学校　二年　木本　陽菜　・・・１３
水質汚染がおよぼす影響　近畿大学附属和歌山中学校　三年　神野　花菜　・・・１４
水資源の大切さ　近畿大学附属和歌山中学校　一年　堤　陽平　・・・１５
水の価値感　和歌山県立田辺中学校　三年　東　湧二郎　・・・１６

佳作

水道水はまずい？　近畿大学附属和歌山中学校　一年　大久保　有紗　・・・１７
減っていく水　紀美野町立美里中学校　二年　宗和　尚吾　・・・１８
「水の大切さ」　田辺市立明洋中学校　一年　田中　光璃　・・・１９
水と人の「心」　近畿大学附属和歌山中学校　二年　森本　匡紀　・・・２０
「将来の水不足に向けて」　近畿大学附属和歌山中学校　一年　山家　三葉　・・・２１

（掲載順序は五十音順です。）

優　秀　賞

「水」との関係

近畿大学附属和歌山中学校　三年
有馬（ありま）　瑞穂（みずほ）

「ただいま。」

三月十一日、四時半過ぎ、いつものように自転車で帰宅した私の姿を見るなり、母は、「心配したのよ。和歌山にも大津波警報が出たから。紀の国大橋辺りは変わりなかった？」と、たたみかけるように叫んだ。

続いて帰った兄にも、同じ言葉をかけ、安心した様子だった。

母が心配した理由は、すぐわかった。

今まで見たこともない映像がテレビから、ひっきりなしに流れていた。

東日本巨大地震がおこったのだ。

まるで、生きて意志を持っているかのように津波が、ジワリジワリと家を、ビルを、田畑をのみこんでいく。

真っ黒の竜のようだ。

襲いかかった竜が、あざ笑いながら海に帰っていく。家屋や牛、船までも懐に抱えながら。

画面には、人や車が今まさに津波に呑み込まれようとしている場面も映っており、「危ない、速く、速く。」と叫んでも届かない。

本当に今日、それも同じ国内で起こったことだろうか。言葉を失うと言われるが、まったく言葉にならない。

津波は、これまで思い描いていた「水」とは全然違った生き物だった。

水は、人間が生きていく上で必要不可欠なものだ。

人間の体重の２／３は水分であり、毎日約二・五リットルを供給、放出している。

水分と体温維持さえできれば、三週間は生存可能とすらいわれており、今回の災害でも冷蔵庫が近くにあるとはいえ震災後一週間以上たって、祖母と高校生が破損した家屋から救出された。

生命の源ともいえる水。

安らぎや、癒しを与えてくれる水。
水と共に生きるには、どうしたらいいのだろう。
作家の曽野綾子さんは、「日本人は水と安全はタダだと思っている。」と話されていた。
確かに、水道を捻れば水がほとばしる。
四季のある日本では、日常生活で水に困ることはほとんどない。
母が心配した紀の川は静かに流れている。
けれど、水は生きて、力を秘めている。
水は恐ろしい。
人間は、水を含め自然の前ではこんなにも無力で、弱い存在なのだ。
だが、ひれ伏すばかりでは、何も変わらない。
恐ろしさを認めた上で、工夫し、よりそい、上手に生かして暮らしにとりいれよう。
それこそ、日本人が、四方を海に囲まれた東西に細長い列島の地理を生かして、生活を文化を創り上げてきた原点ではないだろうか。
五月四日、新しくできた大阪駅では、巨大な屋根に、雨水を利用できる工夫がほどこされているという。
雨水をトイレや空調にとり入れるらしい。
素晴らしい発想だと思う。
水は生きている。
そして、私達人間は水に生かされている。
恐れを忘れることなく、仲良くしていきたい。
怒らせたら怖いけれど、頼りになる無くてはならない友達。
水との新しいつきあい方を始めよう。

優　秀　賞

人と水

近畿大学附属和歌山中学校　一年
栗本（くりもと）　実季（みつき）

私は、人が生きていく上で水はとても大切だと思います。水というのは、人の歴史に深く関係し、料理でもよく使う上に、人の目や耳も楽しませてくれるからです。いくつかの例を挙げて考えてみましょう。

まず人の体は約七十パーセントが水分です。水というのは体の中にもあるのだと考えると、なんだか、不思議な気持ちになります。人間の歴史をさかのぼると、初めは海や川、つまり水で生活する生き物が始まりです。人が生まれる前のお母さんのおなかの中をのぞいてみても、その歴史というのを感じることができます。赤ちゃんを守ってくれている羊水も、一説では、海の状態により近くするためだ、と聞いたことがあります。赤ちゃんの初めの形はとても小さく、こんなに小さい命の始まりが、今の私たちになっているのだと考えられないくらいです。そしてなにより興味深いのは、お母さんのおなかの中で人間の誕生の歴史を見ることができることです。よく見ると、受精後の三から五週間の体は、タツノオトシゴのような形をしています。六週間目は背骨がヒレのような形に見えます。そして七から九週間あたりまでで、両生類などの動物の形に見えます。そこから新たなる進化をとげて、赤ちゃんの形になっているように感じます。つまり、生命の始まりも水中からであり、人間の体にも水分が大きく関係しています。この時点で水はとても大切なものだということが感じられます。

次に料理でかかせないもの、食事でかかせないものも水です。カレーを作るのにも、お味噌汁を作るのにも、水が必要です。カレーを作るのにも野菜が入っています。お肉が入っています。その野菜などを育てるのには水が必要です。私は梅雨の時期が好きではありません。けれども、雨というのは大切です。雨がなくては、人間は植物を育てられません。また、育てた野菜などを食べるのにも水が必要です。水で土をおとして食べるために使うから

です。果実や野菜を食べたときに人はよく「みずみずしい」と言います。くわしいことは分からないけれど、私はきっと人の体と水はアイボー同士だからだと思います。水がなくては人は存在しない、水と人は離れたくても離れられないのです。水は、とても不思議なものです。

最後に、水は人の目や耳を楽しませてくれるものでもあると思います。想像してみて下さい。砂浜で歩きながら見る海。太陽の光が反射されて美しくキラキラと輝く海。そこで聞こえてくる波の音。とても美しいと思いませんか。雑貨屋さんで、よく見かける物があります。それは、水にピンクやブルーの色をつけて、それを立体のケースに入れ、その中にかわいらしい動物などをうかばせているストラップなどです。水はそのままの色で見るもよし、色をつけて見るも遊ぶもよし。色々な楽しみ方があります。さらに波の音をよく聞いてみればお話をしているようにも歌をうたっているようにも聞こえます。水は心を楽しませてくれるものでもあるのです。

このように水というのは人間の歴史に一番よく関係していて、生きていくうえで、最も必要不可欠なものであることはもちろん、私たちの心、つまり精神的な面でも活躍していることが、はっきりとしました。私たちの生活を支えてくれている水を深く理解したうえで心から感謝したいと思います。

ありがとう、水よ。

優　秀　賞

水と自然

近畿大学附属和歌山中学校　三年
山本　直摩（やまもと　なおま）

三月十一日の東北関東大震災から二ヶ月がたとうとしている今でも津波の被害や、水道が届かないなどのことがテレビや新聞で報道されている。宮城県気仙沼の大島では五十日たって、ようやく専門のダイバーが海に潜って、水道管の修理を始めると、テレビから流れた。飲料水、生活用水なしにこの長い間どのようにして暮らしていたのだろう。家が流され、やっとのことで寺や学校に避難した人々、風呂も入れない不自由な生活をどのように耐え忍んだのだろう。蛇口をひねるといくらでも流れる水、それが当たり前になっている今、水がどれほど大切なのかを改めて学んだ。

僕の祖母の時代は、各家庭に井戸があり、お金もかからなかったらしい。冬は温かく、夏は冷蔵庫のように冷たかったので、すいかやうりをかごの中に入れてつるしたそうだ。電気冷蔵庫よりよく冷えたと話してくれた。

今、世界は地球温暖化が進み、台風の大型化、ゲリラ豪雨、干ばつなどの地球上の生き物をおびやかす極端な異常気象がおきるなど、とても気がかりなことばかり増えている。今日も、黄砂が異常に飛んでいて、前が曇って見辛く、洗濯物も外に干せない。

さて、僕達の住む和歌山市の水はどこから運ばれてくるのだろう。改めて考えさせられます。僕は小学校五年の時に奈良県川上村へ合宿に行き、水源地の森を見学し、水のきれいさに驚いたが、その水が僕たちの命の水になっているのだと学んだ。奈良県の大台ヶ原までつながっていて、その周辺の森に降り注ぐ雨水が紀ノ川の水となっている。その紀ノ川の水を作るために、木の伐採や下刈りの努力によって夏の水の使用の多い時期も安心して使うことが出来るという。和歌山の水道水は安定して流れ、森のおかげでミネラルたっぷりのおいしい水になっているので、ペットボトルの水に頼る必要は無いと僕は思う。

森を大切にすることは、雨が降っても、一度に川へ流れこむことなく安定して川が流れることにつながる。これがやがて海に流れ、海に魚が集まり、育ち、豊かな生態系を育んでいるのだ。

加太の町民は家庭から流れる汚水をできるだけ少なくしようと、最大限に努力している。お風呂の残り湯で洗濯したり、食事後の食器の汚れ、特に油ものの汚れは古布や紙で取ってから洗う、米の研ぎ汁を流さずに庭木にやったりしている。

今、だんだん堤川がきれいになってきて、ふなや鯉、かにやえび、やごや水草が増え、ほたるもまた飛びはじめた。時々、さぎやかわせみも見かけたりもします。加太の海に生えるわかめやひじきは豊富なミネラルの含んだ海水に生かされ、光合成が活発で、それが魚たちを育ててくれている。森もまた、光合成でバランスがうまく保っているのだと思う。

自然の循環の中で私たちは生かせてもらっている。これを壊すから、温暖化が進み、降水量が大きく変化し、世界の各地で水不足の問題が起きている。地球上では、人口増加や経済発展での水の必要性もあると思うが、僕達は自然を出来るだけ壊さないで、うまく利用し、必要な分だけ使うことが地球を救うことになり、暮らしがもっと豊かになるのだと思う。

入選

水の大切さ

近畿大学附属和歌山中学校　二年　伊藤（いとう）　南帆（なほ）

料理を作る、お風呂に入る、洗濯をする、などといった日常生活のさまざまのことに水が関わっています。人の体の約７０％は水でできているっていうのも聞いたことがあります。私達が生きていくために、水はなくてはならない存在だと思います。それなのに、私は今まで、水を出しっぱなしにして無駄づかいばかりしていました。しかし、そんな私に、水のありがたさを教えてくれたテレビがありました。自分よりも小さい子供たちが茶色く濁った水を飲んでいるという内容でした。私はこのテレビを見た時、茶色く濁った液体が水とは信じられませんでした。私が普段、見ている水の色とは、あまりにも違ったからです。私は、水道水を飲んだことがありませんでした。水道水は、汚い、おいしくないというイメージがあったからです。こんなことを思っていた自分がはずかしくてたまりませんでした。

水不足の国の人達は、汚い水を飲んで死んでしまうことだってあるそうです。日本に住む私にとっては考えられないことです。そこの国に住む人達は、日本人より洗い物が雑で、お風呂に入るのは五分程度だそうです。とても水を大切にしているのが伝わってきました。

私は今までの生活をふり返り、とてもたくさんの水を無駄づかいをしていたことに気付きました。水の出しっぱなしや、シャワーの出しっぱなしなどです。一分間、水を出しっぱなしにすると、約１２リットルの水が無駄になっているそうです。今まで、無駄づかいをしていたことを後悔したって仕方ないので、これからの生活において水を大切にしようと思います。

日本は水にめぐまれていると思っていました。しかし、つい最近のスーパーには水が一本も置いていませんでした。これは、東北・関東地方でおこった地震の影響です。ニュースで津波の映像が映っていました。東北・関東地方から離れた和歌山に住む私でさえ恐怖を感じました。私は津波の力を軽く見ていたのかもしれません。津波の恐ろしさを改めて、思い知らされた気がしました。

地震がおこって数日後、水道水から出る水に放射線が含まれているというニュースを見ました。今までは、安全だと思っていた水道水が、一瞬のうちに、怖い水になってしまいました。東北・関東地方の人達は、言葉に表せないほどの不安を感じたのだろうと思います。

私のいとこの家族は東京に住んでいます。私達は、東京に、水などを送ることにしました。しかし、スーパーを何軒かまわっても、小さいペットボトルの水が三～四本しか集まりませんでした。普段、スーパーには、大きいペットボトルがたくさん置いているのを見かけます。この状態を見慣れている私にとって、水がないのは不思議に感じられました。この地震からも、水が私達の生きるために必要だということも伝わってきました。

蛇口をひねると、きれいで安全な水が出るということは、当たり前のことではなくありがたいという気持ちを持つことが大切だと思います。水を毎日、安心して飲めるということを感謝する気持ちをいつまでも持ち続けていられる人になりたいです。

入選

カンボジアと水、そして笑顔

近畿大学附属和歌山中学校　二年　井上（いのうえ）　絵莉子（えりこ）

「蛇口をキュッと一回捻るだけで、きれいで透明の水が出てくる。」これが、私の常識でした。

しかし、テレビでカンボジアという国に学校を建てるという企画がありました。それによって私の考え方が大きくかわりました。学校を建てるという事が主旨だったのですが、私は学校に『きれいで透明の水』を製造するシステムをつくるという所も重要に思いました。

その前に、カンボジアの『水』の実態にびっくりしました。遠く離れた所から、泥水のように茶色く濁った水を運んできては、その水を生活用水として使う。しかも水を運ぶのに一日の大半を費やしているのです。

暑い日差しの中、バケツいっぱいに入れた水を両手に持って運ぶ事は大人でもしんどい重労働です。しかも運んでいるのは私と同じ歳くらいの子です。しかし運ばないと、家族が困る。また自分さえも生きてゆけない。

後に、『きれいで透明の水』を製造するシステムが学校で出来ました。そして、私たちが普段飲んでいるあの『透明』の水が蛇口から出てきました。その水をカンボジアの子は大事そうに受けとると、うれしそうにキラキラとまぶしいくらいの笑顔で飲んでいました。

私はその笑顔を見た時、

「水ってこんなに人を笑顔にできるんだ。水ってすごい。」と思ったと同時に、

「自分、水でこんなに喜ぶっけ？」と考えさせられました。私にとって水はあって当たり前だったからです。

その番組に出演している人の中には、感動で涙を流している人や、すごく優しい笑顔の人と様々でした。

私は『水』と『笑顔』はつながっていると思います。だから『水』を大切にすると、誰かが水を得れます。きっとその『誰か』は笑顔になるはずです。

私が直接カンボジアに行って、何かをするということはないかもしれません。しかし、近くにある『紀ノ川』をきれいにすることで、その近隣の子供たちを笑顔にすることができます。

たとえば、皿洗いの前に軽く油や汚れをふきとるだけでも生活排水は少なくなるはずです。『それだけ？』と思うかもしれません。

でも、こういう小さなことでもやらないよりはやったほうがいいはずです。一人一人がちょっと水に対して気をつかい、行動に移すだけで、誰かが笑顔になります。

私は誰かが『笑顔』になっている事を信じて、日々の節水はもちろん、水への意識を高めていこうと思います。

『水があることが当たり前になっていてはいけない。なくてはならない存在だからこそ常に感謝。

またどんなに小さなことでもやらないよりはやった方が絶対にいい。

続けることが大切で、その先には必ずたくさんの笑顔がある』

と私は思います。

入選

水とわたしたちの生活

和歌山県立田辺中学校　三年　浦﨑（うらさき）　菜央（なお）

わたしたちは生活の中で多くの水を必要としています。今、わたしは水道の蛇口をひねれば簡単に安全な水を手に入れることが出来る生活をしています。しかし、それは当たり前にあることではありません。水資源にも限りがあります。

地球上の水は大気や地下などさまざまなところにあります。しかし海水は水源とはいえません。つまりわたしたちが利用することができる水資源はそれほど多くありません。今、世界中で社会が発展し人口が急激に増加していることでインドや中国とその周辺の国々、アフリカなどで水不足が深刻になってきています。また、水の汚染も水問題の一つです。水が不足することは、生物の生態系にも関係します。例えば、人口爆発が起きているインドでは森林伐採のために土壌が浸食され、水資源である川に土砂が流れこみ水を赤く染めてしまいました。河川系の生態系が破壊され、インド洋の珊瑚礁の一部も失われました。またその周辺の人々は大切な生活用水がなくなってしまったのです。

もっとわたしたちに身近なところでも水が不足してきています。それは農産物です。例えば、小麦1キログラムを作るには1トン、米1キログラムには2トン、牛肉1キログラムには20トン程度の水が必要です。それらの農作物を輸出する国々では、水資源を大量に使用するため地下水の枯渇や河川の水の減少が起こりつつあります。そのような国々から食料を輸入している日本は水の不足が食料の不足ともなってしまうのではないでしょうか。

私はこの作文を書くとき、数年前まで水に関する仕事をしていた母に話を聞きました。十六年前の阪神・淡路大震災のとき、田辺水道局の人達がタンク等に水を入れ、被災地へ運んだそうです。地震が起きると水道はもちろん、ガスや電気など普段の生活に必要なラインが寸断されてしまいます。そんな時に水が届けられ、手に入ることはどれだけ幸せでしょうか。今回の東北地方の地震では「水」である津波による被害が深刻です。死者のほとんどが水死だそうです。しかし今回も全国の水道局の人達が被災地に水をとどけたのではないでしょうか。また、これから先に起こるであろう東南海地震の時、わたしたちも「水」の被害を受け、「水」に救われるのだと思います。そして今回の地震では違う水の危機も起こっています。それは原子力発電所の放射性物質による水の問題です。発電所からの放射性物質によって汚染された水の放出は人間だけでなく多くの生物や自然に悪影響を及ぼします。これからこの問題をどう解決していくのか、すごく心配です。

わたしが住む日本は食料をはじめとして、多くの物を輸入しています。それらの物に使われている水は年間数百億立方メートルにもなるそうです。日本は世界に水分野でも多くの技術や金的支援を行っていますが、わたしたちひとりひとりが水に関心を持ち、考えていかなければならないと思います。世界中の人々が安全な水を安心して使うことが出来、もっともっと水を大切にしていこうという意識を持てる日がいつか来るとわたしは思います。

入選

「消えてゆくため池」

近畿大学附属和歌山中学校　三年　岡本（おかもと）　彩（さやか）

ゴールデンウィークを利用して、母の故郷である香川県高松市に行ってきました。

母の実家の近くには公渕森林公園という所があり、大きな池の周りを祖父母と一緒にゆっくり散歩しました。とても鮮やかな緑と、とても深いブルーの池の水がきれいでした。散歩の途中、祖父は話をしてくれました。それは香川県は昔からため池が多くその水を利用して農業を行ってきたそうですが、今では田んぼが少なくなり使われなくなったため池が埋め立てられることもあるということでした。昔と景色が変わっていくことが寂しいと祖父は言っていました。確かに祖父母の家に向かう途中にもあちらこちらに大きさが違う池があり、和歌山市とは違った景色だなと思っていました。

興味を覚え香川県のため池について調べると、香川県は「ため池王国」と言われ県内に一万四千六百十九ものため池があり、降水量も少ないので、昔から農業用水源として使われてきました。他県の多くが、農業用水を河川に求めているのに比べ、香川県では農業用水の約5割をため池に頼っているそうです。

しかし昭和六十年に比べて約千七百ヵ所も減少し、三十年間では四千ものため池が減っていることが県の実態調査で分かったそうです。山間部のため池の機能喪失、高速道路や工業団地などによる埋め立て、ゴルフ場や分譲住宅など民間の開発によることが原因で、水田が減少したり利用されなくなった小さなため池の喪失などになったとのことです

消えてしまった約八割が貯水量4トン未満の小さなため池であり、貯水量には影響は少ないということも書かれていましたが、本当に大丈夫なのか心配になります。大きな河も少なく、雨量も非常に少ない香川にとって、ため池は水不足から人々を守ってくれる、とても大切なものだと思います。また水を確保するという意味だけではない別の役割にもなっているようにも感じました。

東日本大震災により水道が使えなくなったり、放射能による飲料水の規制といった問題もあり、水の大切さはテレビを通してではありますが、よく伝わってきました。

また震災地域からは遠く離れた和歌山でも、ペットボトルの水が売り切れになるといったことも起こっていました。そんな時ため池が激減しているということを知り、とても不安な気持ちになりました。

実際ため池が農業用水として香川の人々を支えてきたり、長い年月の間で洪水を防ぐ役割もしてきたということはわかりました。しかしため池は香川の文化を示すものでもあるのだと思いました。

「ため池が減ってきとるけんの」と寂しそうに言っていた祖父の横顔に、ため池の重要な意味を見つけたように思いました。

入選

水の大切さを考える

近畿大学附属和歌山中学校　二年　河島（かわしま）　宏樹（ひろき）

「ヤンさんの井戸は甘い水がでます。パイさんの井戸は苦い水しか出ません。」甘い水とは、飲める水。苦い水とはにごっていて家畜も嫌がる水です。パイさんの家では飲み水を買うためにお母さんが町へ出稼ぎに行っています。長女は学校へ行けず、家の仕事をしています。苦い水を飲むとすぐお腹をこわしてしまいます。お父さんは甘い水を分けてもらうために親戚に頼みに行きます。この村では甘い水の出る井戸は少ししかありません。

この話は、少し前にテレビ番組で見た話です。中国のある地域ではもう何か月も雨が降っていません。飲める井戸を持っている家と持っていない家では同じ村でも貧富の差が大きく違っています。水をもらいに行く時のお父さんの悲しそうな顔が目に焼きついて、忘れられません。

日本では、水道の蛇口をひねればきれいな水がいつでも出てきます。これが当たり前だと思っていました。たまに水不足だといっても夏にニュースなどでダムの水が少なくなったので節水しましょうと放送される程度で、水道の水が止まったことはありません。でも、世界では飲み水にさえ困っている人が大勢いるのです。近い将来、地球上の半分以上の地域が水不足になるといわれています。

地球の温暖化のために雨が少なくなっているからだという人がいます。自然を破壊したから川に流れる水が少なくなったという人がいます。世界の人口が増えすぎたせいだという人がいます。本当の原因は僕には分かりません。でも、日本も将来そうなるかもしれません。昔日本でも雨が降らず水不足で飢饉がおこり、多くの人々が死んだそうです。水を奪い合い、争いもありました。人々はなんとかしようと努力し、ため池を造り、用水路を造って水不足に備えました。

今、その工夫が世界的な規模で必要なときだと思います。日本には進んだ井戸を掘る技術があります。海水を真水にかえる技術もあります。福岡県では実際に使用しているそうです。これらの技術を世界のために役立てることが世界の平和につながると思います。

世界には紛争や戦争が今でも多く起こっている国があります。人々の貧富の差がその原因であるといわれています。資源の多い国が豊かになり、少ない国が貧困になっていくのなら、将来水資源によって貧富の差が激しくなり、国際紛争もうまれると思います。

だから、日本の技術で世界の平和に貢献するべきだと思うのです。あの番組で見た悲しそうな家族の顔を思い出すと、何とかしなければと思います。僕はこれから自分にできることから始めたいと思います。身近なところから節水を心がけたいと思います。小さなことでも、みんなが力を合わせると大きな力になると思います。同じ人類なので、たとえ国境や宗教、人種の違いがあってもその壁をなくし、助けあうことが大切だと思います。この気持ちが広がっていけば、きっと良い未来が待っているはずです。

水不足だけでなく、地球温暖化や東日本大震災の復興も同じです。だから、自分ができる限りのことをみんなでがんばりましょう。

入選

川の源流を守る

近畿大学附属和歌山中学校　二年　木下（きのした）　青意（あおい）

川がどこから流れ出してくるか、考えたことがありますか。私達が立つ大地の土は半分以上が水です。その水を運ぶ大きな役目を果たしているのが川や地下水です。その川の水が流れ出しているのが川の源流です。

私は川の源流をハイキングで見つけた経験があります。私がハイキングで行ったのは、墓の谷を流れている千手川の源流です。墓の谷とそこを流れる千手川の環境は良く、サワガニやホタルが棲息しています。千手川の源流をＪＲ六十谷駅から千手川に沿って一時間程度歩いた辺りで見つけました。川の源流では当日は晴れていましたが、小さく澄んだ水が涌きでていました。

澄んだ水を出し続ける水源を守るには、墓の谷と千手川のように、森が必要不可欠です。森は何十年、何百年もかけて水を浄化し、緩やかに流します。また森は大雨が降った場合に洪水を防いでくれます。だから、「森が減少して困るのは、林業と漁業だけで日常生活には困らない。」というのは大間違いです。とにかく、水源を守ることと、森を守ることはイコールなのです。しかし今、日本の森は危機を迎えています。森は間引きなどの手入れを怠ると、森の中に日光が入らず土地が痩せてしまいます。そうすると、植物が育たなくなり、生態系が崩れてしまいます。こうしたことが日本各地の山で起こっています。また山が荒れてくると、平行したように川や海にも異変が起こってきます。なぜなら、山の緑が少なくなると、水を貯えにくくなり、山の斜面からはがれた土砂が流れ水が濁るからです。つまり、川の源流を守るということは、山、海、川、大地、全てを守るということなのです。また、言いかえれば川の源流を守るためには自然環境の全てを守らなければならないのです。しかし、世間を見てみると、自然界のバランスが悪いことに気付いていない人が多くいます。例えば、湖が富栄養化してアオコが大量発生した場合、さかのぼって発生原因を考えずに一時的にバキュームカーでアオコを吸い取って取り除くなどということです。対策をとらなければ、再度同じことが起こるのが明らかです。その対策というのがまさに川の源流、山、海、川、大地の全ての自然を守るということなのです。

今日、地球温暖化や酸性雨、水質汚染などの問題が指摘されていますが、根本にあるのは全て密接につながっている自然のバランスが崩れているということです。こうしたことを私達は気付き知らなければなりません。そして、川の源流と私達の生活の結びつきを、もう一度じっくりと、考えてみようではありませんか。

入選

水不足解消のために

近畿大学附属和歌山中学校　二年　木本（きもと）　陽菜（はるな）

蛇口をひねると普通に出てくる水。この光景を見ていると、水があることはあたりまえのように感じていました。夏場、テレビでよく「水不足」について報道されていますが、私はこれを見て、

「えっ、水不足？　普通に水、出るのに。」

と思っていました。しかし、本当に水不足は深刻でした。

水不足にはいろいろな原因があるそうですが、一つは二十世紀になり、世界の人口が爆発的に増えてきたことにあります。人口が増えると、食物が多く必要になり、生産するための農業用水が増大します。また、普段の生活のために必要な生活用水も増大します。これらに必要な淡水は地球上にほんの少ししかありません。つまり、量が足りなくなってしまうということです。

他には、科学技術の発達にあります。工場や車から排出されたガスなどによって、水が汚染されていたのです。使える水も使えなくなってしまいます。

最近では、地球温暖化ともかかわりがあると言われています。気温が上がると、地域によって降水量が減ったり、降水量は同じでも、強い雨が増えて水が一気に流れてしまっていることが原因です。

汚染された水は浄化装置や浄化フィルターなどできれいな水に戻るかもしれませんが、「水が足りない」ということはどうしようもできません。

少し前にテレビ番組で、私よりも小さな子供たちが汚れた泥水を飲んでいるのを見ました。日本ではありえないことが世界では起きていたのです。また、ある国では海水でシャワーを浴びている映像も見ました。日本国内はどの家どの場所でも、ごく普通にきれいな水が水道管から出てきます。水が無いがために失われる命が、世界ではたくさんあるのです。水があることを「あたりまえ」だと思ってはいけないということを改めて感じました。

私はよく、シャワーを浴びるときや歯をみがくときに、水を出しっぱなしにしていました。今思えば、とてももったいないことをしたなあと思います。いったい何リットルの水を無駄にしてしまったのか。それだけあれば、たくさん他のものに利用できたのではと思いました。これからは水を大切に使っていこうと思います。

今、駅や学校、スーパーなどのトイレで、

「節水にご協力ください」

といったポスターが貼ってあるのをよく見かけます。「水が足りない」のなら、私たちにもできることがたくさんあるはずです。水を出しっぱなしにしない、水の無駄づかいはやめる。一人一人が節水を心がけることが、水不足解消への第一歩だと私は思います。そして水不足がない世界になればいいなと思いました

入選

水質汚染がおよぼす影響

近畿大学附属和歌山中学校　三年　神野（じんの）　花菜（かな）

少し前のニュース、それは『東北大地震』についての報道。私はその中で気になった知らせがあった。「放射能が海に流れこんでいる」と。原因は今回の大地震により原子力発電所が機能を停止してしまい、そこから放射能がもれたこと。だが、私が気になったのは水質汚濁によって悲痛の声を上げる人々。

あるニュースでは漁師さんが「この海で生計を立てていたのに、魚を獲る事を禁じられて今後の生活が心配である。」とか、水道水にも放射能が含まれて、子供に悪影響を及ぼすとか、それを知った人々が混乱してペットボトルの水を買い占めてしまうとか。

水は人間が生きるためには絶対に欠かせない。水が無ければ生き物は育たない。水が無ければ野菜・米は育たない。水が無ければ魚は生きていけない。野菜・米・魚・他の動物が育たないと人間あるいは他の動物は食べる物が無くなり、やはり生きていけない。水というものは全てに共通して必須である。

しかし、その大切な水が汚れてしまってはどうなるだろう。

野菜や米はどうなる。そんな汚い水を吸収してそのまま育つ。それを私たち人間や動物は食べることができるのか。恐らく死ぬまではいかなくとも、何らかの悪影響で体を苦しめられるだろう。

魚はどうだ。魚なんかそんな汚い水の中で過ごすんだ。死に至ってしまう。だから、やはり私たちの生物は食べられなくなる。食べたところで植物と同じ、身体に悪影響を及ぼす。

結果、サイクルとして人間と水は切っても切り離せない関係である。今回は天災でたまたま運が悪かっただけ？今回は？じゃあ前はどうだったんだと私は言いたい。そんな事言っていたらキリがない。私たちが豊かな生活をしていく以上、私たちは水に影響を及ぼしているではないか。高度経済成長期に起こった忌々しい四大公害。水質汚濁が原因で亡くなった人の数、苦しんだ人の数を絶対忘れてはならない。この方たち・この事件があっての今の暮らしだから、全てを否とするのではない。だがやはり、過去にこういう事があったのだとこれからも次の世代、また次の世代へと語り継がなくてはならないと私は思う。

私たちの今の暮らしはとても便利である。とても便利で、衛生で、快適に過ごせているのは事実である。だが、表には必ず裏という物が存在し、その裏がこれからの未来、人類の存続に関わっていると言っても過言ではないと思う。そんな何千年と未来の事を誰が想像なんて出来る。誰も出来るはずがない。しかし、想像が出来ない分、分からない未来を少しずつでも良い方向へ、少しでも水と人間ら生物が良い関係を築き、保てるように私たちがこつこつ頑張ってみるものではないか。

入選

水資源の大切さ

近畿大学附属和歌山中学校　一年　堤（つつみ）　陽平（ようへい）

人間の身体の大部分に水が含まれ、人は水なしでは生命を維持することはできない。ぼく自身、毎日の生活で特別意識せずたくさんの水分を摂取している。

今の日本は、たくさんの水源に恵まれ、洗たくや庭の水まきにも上水を使うようなぜいたくな生活だ。どの水道をひねっても、ほぼ飲める水がよどみなく出てくることがあたり前だと思っている。でも世界中を見渡すと、これは決してあたり前ではなく、特別でありがたいことだとわかる。

アフリカのケニアでは、水汲みは一日のうちの重要な仕事で、主に女性と子供が行っているそうだ。二十リットルのタンクを片道二十キロメートル以上の道のりを運ぶこともあるらしい。そのために学校に通う時間も少なくなる。

それでは井戸を掘ればいいのではないかと考えた。確かに、ある団体が募金を集め、五百万円の費用をかけて掘った井戸で、二つの学校と七つの村を含む十キロメートル四方の地域の七百人の人達がこの水を使用できるようになったらしい。だが、それだけでは何も根本的な解決にはならないのだ。

まず、このような井戸は、維持していくのにもたいへんなお金がかかる。掘るのを助けるだけでは十分な支援とは言えないのだ。まだ、世界中に拡大しつつある水不足の国々でこのような井戸がたくさん掘られ、そこから大量の水を汲み上げることのできるポンプの普及によって地下水位が下がってきている問題が生じているそうなのだ。地下水位が下がれば、今ある井戸も枯渇してしまったり、そもそも井戸が掘れなくなってしまう。

地下水位の低下は、今では世界各国でみられ、将来的には農業用水の不足による食料不足の原因にもなりかねないと言われている。

それでは、どのようにしてこの水不足をくい止めればいいのだろうか。この半世紀で、水の需要は三倍に増えたらしい。人口の増加、工業の発展などによって、地球規模の森林破壊、環境破壊が進んでいる。土地の砂漠化などの問題もよく耳にする。地球の環境を守りつつ、緑化、節水に努力することを世界中で心を一つにして行っていかなければならないのではないだろうか。

日本国内でも、今の恵まれた水資源を大切にしなければならない。森林の伐採による土砂くずれや、鉄砲水のニュースが雨の多い時期には必ず聞かれる。

この春、ぼくたちは大事な水のもう一つの力を見せつけられた。東北地方を襲った大津波は、人間の経験や予想をはるかに上回り、多くの人々の生命や財産を奪っていった。あたり前だと思っていたライフラインが停止し、いつでも、どこでも安全安心だった水道水が汚染された。

これからのぼくたちの世代では、いままでの環境を二の次にした発展の後で、もう一度自然や人間らしさを大切にすること、共存していくことを考えなければならない。そのためには、今まであたり前だった便利さはあきらめなくてはならないこともあるだろう。でも、次の世代に豊かな水資源、住みよい環境をバトンタッチすることのほうが大切なことだと思う。

入選

水の価値感

和歌山県立田辺中学校　三年　東（ひがし）　湧二郎（ゆうじろう）

水。川を流れて海を創り、雲に変わって雨を降らす。そうして生き物達に恵みを与え、人間の文化を築き、支える。水は、僕達人間の生活に最も欠かせないもの。そして、最も身近に存在するものである。では、水は人々の生活にどう関わってきたのか。今と昔では水に対する考えがどう変わったのか。そして、現在の水問題について、どうしたら止まるのか。今回、おばあちゃんの話を通じて考えたいと思う。

おばあちゃんが小さかった頃。丁度、第二次世界大戦中の事だ。まだ水道というものは存在せず、井戸が人々に水を与えていた。

当時、大浜には五軒一棟の長屋が建ち並び、その一棟に一つずつ井戸があったという。しかも、その一つの井戸を五軒一棟の人々で使い合っていたのだ。

それを聞くと、今と昔では『水の価値感』が随分と変わってしまった様に思う。今なら捨ててしまうであろう米の研ぎ汁も、昔はそれで床を拭いたり、草花にあげたりしていた。今の様な冷蔵庫が無かった昔、スイカなどを井戸に放り込んで冷やして食べ、その時使った水を飲んだりした。

今では、水を流しっぱなしにしたり、川に平気でゴミを捨てたりと、すっかり水の価値が薄れてしまっている。水は貴いもの。だが、身近かに存在するあまり人々はその価値を忘れてしまうのだ。

おばあちゃんの話に戻そう。流石に一つの井戸を五軒一棟の人々の中で使うのは大変。そのため、何時も井戸には大勢の人々が集まっていた。大抵炊事や洗濯をするため来た人々である。

一つの井戸で家事をこなすのは重労働。しかも大勢集まるから順番を待つ事は避けられない。いかにも苦しい環境の様に思われるが、人々は順番を待つ間、他の人達と世間話をして楽しんでいたらしい。それもあってか、五軒一棟の長屋に住む人々はとても仲が良く、まるで一つの大きな家族の様だったとおばあちゃんは言った。

今の時代、地域の人々との繋がりが薄くなりがちだが、昔は井戸を囲み、周りの人々と友好を深め合う事が出来た。水は、人々の生活を支えるだけでなく、人との繋がりをうんでいたのである。

時代が進むにつれ、人は根本的な部分を忘れていく。『水の価値感』の変化もその一つ。「水は生命の源。大事にしなくてはならないよ。」と言われても、大抵目の前の『便利』や『利益』という欲に気を取られてしまう。そうやって人間は、自分で自分の首を絞める結果を招く。場合によっては、自分だけでなく他の人々、または生き物達を巻き込む羽目になるのだ。

しかし、今の世の中には確かな「技術」がある。現在、下水処理場が備えられ、家庭から流れ出た下水を浄化し、川に流す事が多くなっている。また、最近では「海水を淡水に変える技術」や「自転車のエネルギーで、汚染された水をクリーンな水に変える水処理技術」、「断水しなくても修理できる水道修理技術」など、水を浄化する技術を中心に発展を遂げているらしい。

最近では、世界規模で水の問題が起こっている。なので、今までの話をふまえ、最後に自分の意見を書いてみた。

水に関して言っても、確かに現在は昔と比べて便利な世の中になっている。そして、発展的技術を持っている。しかし、それと同時に『水の価値感』という足元の部分がおろそかになりがちだ。特に過去を学び振り返って、水のありがたさを感じ、大切に扱う。しかし、単に個人でやっても意味を成さない。日本、いや世界が、井戸を囲んで話し合う五軒一棟の人々の様に団結し合って初めて、水問題の解決への手立てが見えてくるだろう。

佳作

水道水はまずい？

近畿大学附属和歌山中学校　一年　大久保（おおくぼ）　有紗（ありさ）

これからの暑くなる時期、のどがかわいた時に飲む「水」は本当においしいです。

みなさんは「水」を飲む時、ボトルに入った「ミネラルウォーター」を飲みますか？それとも蛇口から出ている「水道水」を飲みますか？私は今まで、そのまま飲む時はボトルの「ミネラルウォーター」を飲んでいましたが、今回、「水」についての作文を書こうと思い、『水がのめなくなる!?』（高橋敬雄著）を読んでみて、その考えが少し変わりました。

まずボトルの「ミネラルウォーター」と「水道水」のちがいです。私は、二つは成分が全く違っているのかと思っていましたが、ろ過した水をボトルにつめて売られているのが「ミネラルウォーター」で、同じくろ過した水を上水道から配っているのが「水道水」だということです。もちろんボトルの「ミネラルウォーター」は、採水した土地のミネラル分がとけて入っているので、成分が少し違いますが、基本的にろ過した「浄水」であることは同じだという事を知りました。

ではどうして味が違うのでしょうか。それは「ミネラルウォーター」は、元々きれいな水をろ過したものなのに対して、「水道水」は、生活排水などが入った川の水をろ過した後、とりきれなかった汚れを塩素で消毒したものだからです。残った塩素のニオイで水の味が悪くなっています。また、塩素と汚れが反応してトリハロメタンという有害物質ができ、水道水の中に含まれているそうです。

では飲み水は全部「ミネラルウォーター」にした方が良いのでしょうか。「ミネラルウォーター」も全く安全だという訳ではありません。一九九〇年には「ペリエ」というフランスのミネラルウォーターから発ガン性物質が検出された事がありました。塩素処理をしていないので、採水地が汚染されていると、すぐにミネラルウォーターの品質に影響が出ます。しかも、ミネラルウォーターは水道水よりも値段が高くて、毎日使うと大変です。

本の中では、一九八五年都の消費生活センターがミネラルウォーターと水道水を比べる試験をしたところ３２種のミネラルウォーターのうち２８種は湯ざましの水道水と区別がつかなかったという結果もでています。

安全面、経済面の両方を考えると、どちらが良いとも言えない気がしてきました。

水の味を悪くしているのは残っている塩素や元の水にいた微生物の出したカビ臭です。つまり、元の水がきれいであれば、ろ過した後に使う塩素も少なくてすみ、塩素臭が残る事も少なくなるでしょう。さらに汚れ＋塩素で発生するトリハロメタンも少なくなり、水はもっと安全でおいしくなると思います。

「元の水をきれいにする」には、何をしたら良いのでしょうか。この本ではわたしたちが必要以上にものを買ったり、すてたりしない事もその一つだと言っていました。また、アメリカ環境保護局（ＥＰＡ）の水道水基準みなおし作業についても書いてあって、「元の水をきれいにする」という事が大変だけど大切な事だとも知りました。

安くて、便利な「水道水」が「ミネラルウォーター」のようにおいしくなるように、まず、自分の水の使い方について、もっとよく知らなくてはいけないと思いました。汚した水が自分の「水道水」をまずくする事がなくなるようによく考えていきたいと思います。

佳作

減っていく水

紀美野町立美里中学校　二年　宗和（そわ）　尚吾（しょうご）

今日本には、たくさんの水があります。しかし、世界では食料がなくなったりして亡くなった人がたくさんいます。僕はその原因は水が不足していたり、水があったとしてもその水が汚染されていて飲めないようになってしまったんだと思いました。そこで今世界で水が不足している原因を調べて考えてみました。

資料によると水が減っていく原因となるのは「地球温暖化、国の発展、外国からの輸入」の三つです。まず地球温暖化では砂ばく化と洪水によって水が減っています。砂ばく化すると植物もほとんどなくなり水が少なくなってしまいます。洪水でも水不足になってしまいます。洪水になると水が増えると思うけど逆に、泥や排水など汚れた水が出てきて飲み水や工場で使ったりしている水が少なくなってしまいます。だから温暖化は人になり関係のあることだと考えられます。

次は国の発展による水の減少です。国が発展していくことにより工場が増えて水の消費量が多くなります。そして、人口も増えていったらさらに水の消費者が増えだんだん水が不足していってしまいます。

最後は、輸入による水の不足です。日本はほとんど食料は輸入にたよっています。相手側、ものを輸出している方は自分の国の分、相手の国の分をつくらないといけないので大量に水を消費してしまいます。今は大量に水があったとしてもこのままずっと何十年もいけは、だいぶ水が少なくなっていると思います。今は大丈夫かもしれないけど、この先どうなるか分からないので日本も輸入にたよりすぎないで自分の国で作った方がいいと思います。そうでないと相手の国の水が不足してきて自分の国の分しか作れないようになると輸入できなくなるから大変なことになってしまうからです。

しかし、水がなくなってしまうからと言っていたら国を発展させることができません。国を発展させるには工場や家などが増えるので必ず水を消費します。だから発展した後や発展途中などつねに環境に気をつけて排気ガスをあまり出さないようにすれば、だんだん国も発展していき水も不足しないですむと思います。環境をきちんとしていたら砂ばく化もせず洪水も少なくなり一気に水がなくなることを防げます。

国を発展させていくにも、生物が生きていくためにも必ず水が必要です。その水を不足させないためには温暖化を防ぎあまり輸入にたよりすぎないようにしましょう。そうすれば水を求めての紛争もなくなると思います。これからも生物が生きていくためにこういうことに気をつけて水を大切にしましょう。

佳作

「水の大切さ」

田辺市立明洋中学校　一年　田中（たなか）　光璃（ひかり）

私は、実際に体験したことや世界の水事情から、水の大切さについて考えました。

日本は、そのまま飲める軟水が豊富にあり、しかも、水道に軟水が流れている世界でも数少ない国だそうです。

ですが一方で、世界中できれいな水を飲めない人たちは、九億人以上もいるそうです。これは、地球上の人口の十三パーセントに当たります。しかも、五歳に満たない子供たちの中で、五人に一人は汚れた水しか飲むことが出来ない環境で育っているらしいのです。今日も世界のどこかで、汚れた水と衛生環境が原因となり、四千人もの子供の未来がうばわれているというのが世界の現状です。

前に見た番組で、雨水を貯めてそれを飲んだり、生活に使う家族の映像を見ました。でも、その時は「こんな汚い水を飲むなんて、無理だな。」とそんな気持ちしか持っていませんでした。でも、今考えてみると実際水に恵まれている私達には、想像もできないし、考えられないことだったからだと思います。

そう考えると、私達は他の国と比べても、とても水に恵まれています。でも、日本では水道の蛇口をひねれば、安心安全で飲むことも出来るきれいな水が出てくることに慣れてしまい、そのことが当たり前のようになってしまっているのではないでしょうか。そして、水に対してのありがたさや感謝の気持ちを忘れてしまっているのではないのかなと、私は思っています。

しかし、水に恵まれているからといっても、日本も、都市部の方では環境が破壊されつつあり、水道水を飲むことが出来ない地域もあります。

私が奈良に旅行に行った時、泊まった旅館の洗面所で、水道水を使おうとした時、大人の方に、

「この水道水は汚いから、飲んだらあかんで。大阪の水とかも、飲めんみたいやで。」

と声をかけられました。私は、このことを聞いて、びっくりしました。和歌山県では、そんなことないので、とても驚きました。

今回の東日本大震災で、一時水不足になり、大パニックになりました。もしそれ以上のこと、例えば日本からきれいな水が無くなってしまったら、どうなるのだろうと考えてしまいます。

このようなことにならないために、私は節水をするべきだと思います。例えば、よく歯みがきをしている間、ずっと水を出しっぱなしにしていたり、お風呂に入ってシャンプーをする時などに、シャワーの水を出したまま洗っている人はたくさんいるでしょう。常に節水を意識していれば、こういうことは無くなり、水のむだづかいが減ってくると思います。でも、こういう活動はみんなで協力し、一人一人がこつこつとがんばっていくしかありません。

だから、簡単に出来る節水の仕方を紹介したいと思います。トイレの洗浄レバー。この洗浄レバーは、「大」と「小」で二リットルの違いがあるそうです。しかも、この機能は日本以外の国ではあまり無いそうなので、ぜひ活用してほしいと思います。

今、私たちにしか出来ないことを、日本の自然や環境を守るために、やらなければいけない時に来ています。

「水は私達の生活に深く関わっており、とても重要な資源である。」ということを全国民が認識することが大切です。

未来の日本のために・・・。

佳作

水と人の「心」

近畿大学附属和歌山中学校　二年　森本（もりもと）　匡紀（まさき）

人の心と水は連動しているのだと思う。

例えば人が水を大切に思わず、杜撰に扱っていれば水は濁ってしまう。まるでその人の心を表すかのように、だ。でも人が水を大切に扱えば、水は自然なまま、澄んだままだ。

なんだ、こんな賢ぶった正論を言って。また水を大切にしろとか言うんじゃないだろうな。そう思う人もいるだろう。まぁ、僕だって水を無駄づかいすることもあるし、杜撰に扱ったこともある。人のことは言えない。でも、今一度考え直してほしい。

ここでは、僕自身の体験に触れながら色々と意見を言おうと思う。

まず、生活の中から。当然、たくさんの水を使うだろう。洗顔に風呂、トイレ、料理、洗濯物・・・あげ始めるといっぱいある。中には、その家独特の扱いだってあると思う。僕の家はいたって普通の使い方をしているが、やっぱり無駄づかいが多いと思う。

例えば手を洗う時、石鹸を手につけて洗っている間、水を出しっ放し、ということは誰だってあると思う。僕はそんなの日常茶飯事だし、正直に言うと、風呂で頭や体を洗っているときにも、だ。水を止めるのが面倒でそのままにしているが、今考えると、一体どれだけの水を無駄にしたんだろう、と思う。もし自分と同じようなことをしている人がいたら、その量はさらに跳ね上がる。十リットル？二十リットル？いや、もっといくかもしれない。

僕の場合、やっぱり「面倒だ」と思うところが原因だろう。理由がどうであれ、「無駄づかいになっているな。」と気付き、行動に移すべきだと思う。当たり前のことを言っているが、それが自分となると気付きにくいものなのだ。

だから、普段からそういうことに対して気を遣っていればいい。いや、遣うべきだ。そうすれば自然と形となって出てくるかもしれない。

次に、川岸や海辺に捨てられているゴミに関して。僕はあまりポイ捨てをした記憶は無いが、海辺や川辺に行くとゴミはたくさん目にする。多分、ポイ捨てする人からすると、「自分一人くらい・・・」という気持ちからなのだろうか。それとも「これくらい捨てても大して環境に悪くないし・・・」という気持ちなのだろうか。これらも誰でも想像できる有りふれた理由なんだろうが、実際そうだと思う。

ここで突然だが一句。

「忘れずに　塵も積もれば　山となる」

本当にそうなのだ。前述の理由は確かに二、三人くらいなら通用するだろうが、「塵も積もれば山となる。」大勢がすると、川岸、もしくは海辺がゴミだらけになり、そのうち川、または海に流れ出てしまう。結局は水の汚染になってしまう。だから、ここでも心を入れ替えて、「私一人で水が変わってしまうかもしれない。」と考えて、家に持ち帰るのが無難なんだと思う。

要は心の持ちようなのだ。僕達が思っている以上に水は繊細で、扱いが難しい。だから僕達もそれくらい繊細な清い心を持てばいい。

水は人の行く末を何万年も前から見ている。そして、今も、これから先の未来も、だ。これから先、人の「心」によって水は変わっていく。そして、その「心」によって私達の行く末も変わるのだ。

佳作

「将来の水不足に向けて」

近畿大学附属和歌山中学校　一年　山家（やまが）　三葉（みよ）

私は、普段、どのようなことに水を使っているのかを考えてみました。その結果、洗顔や歯みがき、洗濯、食器洗い、料理、飲み水、花の水やり、入浴、トイレの洗浄、手を洗うことなど、さまざまなことに使っていることが改めて分かりました。好きなときに蛇口をひねり、好きなだけきれいで安全な水を使用することが、私達はできるのです。

果たして私達は、そういう便利さを当たり前だと思ってしまってはいないでしょうか。

世界では、水不足で困っている人達や、安全な飲み水を手に入れることが困難な国や地域がたくさんあります。安全な水がないために、仕方なくよどんだ池や不衛生な井戸などからくみあげた水を使い、病にかかって苦しんでいる人達も、数えきれないほどたくさんいるのです。

こうして世界と比べてみると、日本のような生活は、決して当たり前ではないことが分かります。何も苦労せずに安全な水を手にすることができるのは、とても恵まれた幸せなことなのです。

このように考えると、こういう恵まれた環境にいられている私達は幸せです。そういうところに住めているということに、感謝しなければいけません。そして、私達の命、また、生活を支えてくれている水にも感謝しなければならないと、私は思います。

しかし、日本もずっとこのような環境でいられるわけではありません。地球温暖化による気象変動や、森林伐採による森林減少で地下水が減るなど、さまざまな理由で、飲み水となる淡水が減ってきてしまっているのです。つまり、いつか日本も水不足におちいる可能性がとても高いということです。

そんなことにならないよう、水が豊富な今から、色々なことについて考え、行動にうつしていかなければならないのではないでしょうか。

今、海水を飲み水にかえる研究をしているという話を聞いたことがあります。地球上の水のほとんどが海水であるため、もし、海水を飲み水にかえることができるようになるというその研究が成功すれば、水不足になる心配は必要なくなるので、ぜひ、その研究を成功させてほしいです。

でも、研究家ばかりにたよらず、水を使う私達自身にもなにかできることはないか、考えていかなければいけません。「こまめに蛇口を閉める」「使う時は少しずつ出して、出しすぎない」「水は出しっぱなしにしない」「入浴に使った水を水やりに使う」など、身近なところで、できることがたくさんあるのです。そこから、一人一人が日本や世界の将来のために、今から気を付けていけば、きっといつまでも水不足にならずに、今のような幸せな環境がずっと続くと信じています。

そしていつか技術が発達し、海水を飲み水に変えるあの研究が成功したとき、世界から水不足の国が消えて、世界中の人々がきれいで安全なおいしい水が飲める、今の日本のような環境の中で生活していることを願っています。

第３３回「全日本中学生水の作文コンクール」概要

第３５回「水の週間」の行事の一環として実施された作文コンクールの概要は、次のとおりです。

１　応募要領

①テ ー マ・・・「水について考える」（題名は自由）

②対　　象・・・中学生（中学生と同じ年齢の方を含む。）

③原稿枚数・・・４００字詰め原稿用紙４枚以内、日本語で表記された個人作品に限る。
題名・学校名・学年・氏名（ふりがな）を記入する。

④あ て 先・・・和歌山県庁　地域政策課
〒６４０－８５８５　和歌山市小松原通１－１
ＴＥＬ　０７３（４４１）２４２３

⑤募集期間・・・平成２３年５月１３日締切り

⑥版 権 等・・・○応募作文は自作の未発表のものに限る。
○応募作品の版権は、主催者に帰属する。
○応募作文の返却は行わない。

２　応募状況

応募学校数	応募総数	学年別		
		１年	２年	３年
校	編	編	編	編
１１	８３３	２９２	３０１	２４０

３　審　　査

応募作文８３３編を対象に、和歌山県審査において、優秀賞３編、入選１０編佳作５編あわせて１８編の入賞作文を決定。

（協　力　和歌山市中学校国語教育研究会）

４　表　　彰

（１）賞および賞品

賞	賞　品
優秀賞	賞状、図書券
入　選	賞状、図書券
佳　作	賞状、図書券

（２）表彰式

優秀賞の受賞者を平成２３年８月５日、和歌山県庁において表彰

水の恵み

岩手県宮古市提供

東日本大震災を機に

宮城県登米市提供

あらためて考えてみませんか？

防衛省提供

防衛省提供

普段当たり前のように使える「水」

第35回

8月1日は「水の日」
8月1日～7日は「水の週間」

水は限りある貴重な資源です

「水の日」「水の週間」に関する行事等の情報は、国土交通省ホームページもしくは独立行政法人水資源機構ホームページをご覧ください

水の週間　検索

国土交通省・都道府県・水の週間実行委員会